



10

The Fifth Year

「復興とは、何か大きな課題を解決することでも、目に見える成果を出すことでもない。『若いあなたが、今ここに居ること』そのものなのだ」という教えです。私は、課題を解決するアイデア

新しい年を迎えるたびに、「持続可能な社会とは何か」「自分は今年、何ができるか」と具体的な行動やアイデアを考えたりします。そこで、新年にあたり、読者のみなさんに共有したいのは、三重県熊野市・二木島にある最明寺のご住職から教わった、忘れられない言葉です。

や行動を出せなければ意味がないと考えていました。しかし、ご住職は「若い命がその場にあることで、人々は未来を想い、新たな未来を描き始める」と教えてくれました。若者が来るだけで地域に希望が灯り、その地域のことを考える時間が延長され、未来づくりに向けての何らかの「約束」が徐々に生まれていくというのです。これは、複数の地域に通い続ける私の実体験からも、振り返ってみると「確かに!!」と思う内容でした。今、社会には課題が山積み状態です。何かの解決に向けて、すぐに何かをしなくてはなりません。が、お世話になった人への恩返しでも、美しい自然を未来につなぐためでも、あなたの心を養つ

てくれるところに、まずは「自分の身体ごと行ってみる」のはいかがでしょうか。ただそこに居ることから始まる関わり方があるのだと思います。自分が大切に想う場所や人のもとで、一緒に思考していく。そして、小さくても、自分のできる形で考えて動いてみる。その一歩の積み重ねが、未来を変えるきっかけになるのだと信じています。

新しい年、大切な場所へ、まずは自分の身体ごと行ってみるから、新年を始めてみませんか。

前号に引き続き、広島県出身で音楽朗読作品二十歳になったらを創作した音大生、村田菜さんへの取材レポートと、新メンバーの

紹介を掲載します。



○サメさん 中学1年生

朗読劇という形で表現された物語に心を引き込まれました。特に印象的だったのは、言葉の表現の仕方です。声のトーンや間の取り方が絶妙で、人物たちの心情が鮮明に伝わってきました。それだけでなく、何人もの力を合わせて一つの作品を作ること、まさに、多くの力が集まって生まれる芸術という部分に心を打たれました。また、広島県の原爆をモチーフとした作品は、戦争や平和に対する、村田さんの思いが感じられ、非常に興味深かったです。この、戦争や平和に対するテーマを取り上げる

ことにより、ただの劇で終わるだけでなく、見る人に何かを考えさせられるのだと感じました。物語を通じて、過去の出来事に向き合うことは、意義あることだと思いました。



○Nackey 中学3年生

この夏、私は、広島とドイツで「戦争と平和」について考える事業に参加しました。恒久的平和の実現に向け、ホロコーストの反省を胸に刻むドイツの中高生と対話をする中、私は「知る責任」と「伝える責任」について、深く考えるようになりました。戦後80年、体験者の生の声を聴くことができる最後の世代といわ

れる私たちには、次の世代に伝える責任があります。そのカギは「ジブンゴト化」にあると思います。村田さんたちの朗読劇は、まさにそのきっかけを作ってくれています。犠牲者14万人という丸められた数字の中に、ごく普通の少女の人生があったこと。その命と未来を一瞬で奪った原爆。怒り、悲しみ、苦しみを恐怖や凄惨さではなく、ピアノで語る工夫は、明子さんの人生と平和への思いに、素直に寄り添える手助けとなっていました。朗読劇でピアノを演奏する汲地紗弥さんは、「温かく包み込んでくれる音で、明子さんのような強さとやさしさがある特別なピアノ」と教えてくれました。明子さんのピアノは、80年たった今も生



き続け、平和をつなぐことをそつと応援してくれています。

■新メンバー紹介



○サメさん
中学1年生

これまで、学校ではキリスト教の教えに触れる機会が多く、その中で「人は、なんでこう考えるのか」「価値観はどう形づくられるのか」という点に興味を持つようになりまし。宗教の背景にある、歴史や文化を知ること、人々の行動や考えがどのように変わってきたのかを理解できるのではないだろうかと思い、日本の古くからある「宗教」仏教について知りた

た。加えて、小説や詞を作るのが好きで、表現を通して自分の考えや気持ちを形にする楽しさを感じています。今回この活動に参加することで、様々な価値観や経験を持つ方と関われたらうれしいと考えています。まだ、中学1年生で不安もありますが、頑張るので、どうぞよろしく願います。

○Nackey
中学3年生



新メンバーになりました、中学3年生のNackeyです。
「えらスクール」での取材執筆を通し、新たな活動や人に出会えることを楽しみにします。
私は、学校で、ボランティア部に所属し、モロッコと日本をつな

げる活動をしています。モロッコは、日本ではあまりなじみのない国ですが、社会的・宗教的弱者である女性を支援することを目的に、大使館と連携し、日本の中高生でもできることに挑戦しています。

この「えらスクール」の活動では、少しでも多くの取材活動に参加し、中高生にとって身近な活動を深掘りし、一歩踏み出すきっかけやコンパスになるような情報をお届けしたいです。

●「SDGs for School x 曹洞禅」

バックナンバー
過去4年間の連載記事から、最新記事まですべて閲覧できます！

